

若者の“男性の育児”に対する認識 についての実態

コード番号:0608

研究目的

▶ 日本社会の現状

- 1、**少子化とその背景**→晩婚化、出生率の低下、育児における女性の負担
- 2、**家庭環境、労働環境の変化**→「片働き」から「共働き」で子どもを持ち育てていく生活様式への移行
- 3、**若い世代を中心に広がりつつある、性別役割分業意識の変化**

→男性が積極的に育児に参加できるような社会環境の整備が重視

一方で...

問題点

- 1、日本人の性別役割分担意識の傾向
- 2、日本人男性の育児関連時間
- 3、各国と比較した男性の育児休業取得率の低さ

→これからの日本を担う若者(20代男女)の、育児休業取得に対するイメージは？

→男性の育児休業取得に対する意識に影響している要因は何か？

20代男女を対象に育児休業所得に対する認識に影響する要因を明らかにすることを目的とする。

本調査により、今後どのような働きかけをしていけば良いのかについての示唆を得たい。

研究方法

▶ **研究デザイン** 無記名自記式質問紙調査を用いた量的研究

▶ **研究対象者** 20代男女(213名)

▶ **調査期間** 2020年6月末～7月上旬

▶ **データ収集方法**

- ・無記名自記式のアンケートをGoogle Formsで作成、調査協力依頼はLINEを活用し、範囲は研究者の友人、及び友人の友人までに限定

- ・調査項目：1)属性 2)結婚希望 3)子育て希望 4)将来の育児休業取得に関する考え 5)子育て観 6)性別役割分業に関すること

▶ **分析方法**

- ・記述統計算出後、育児休業取得希望の有無と関連要因についてx²検定を行った。

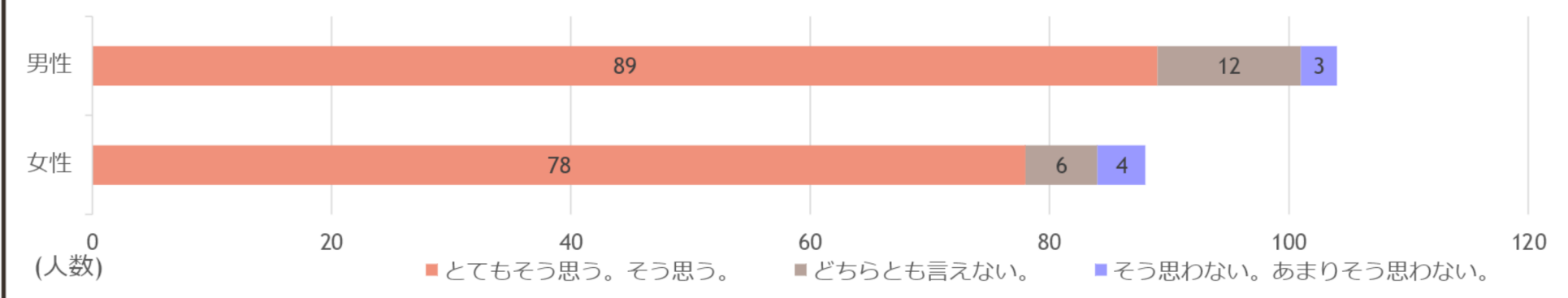
- ・自由記述の回答は「男性が育児休業を取得するための方策」について記載されている内容を抽出しカテゴリー分類を行った。

▶ **倫理的配慮**

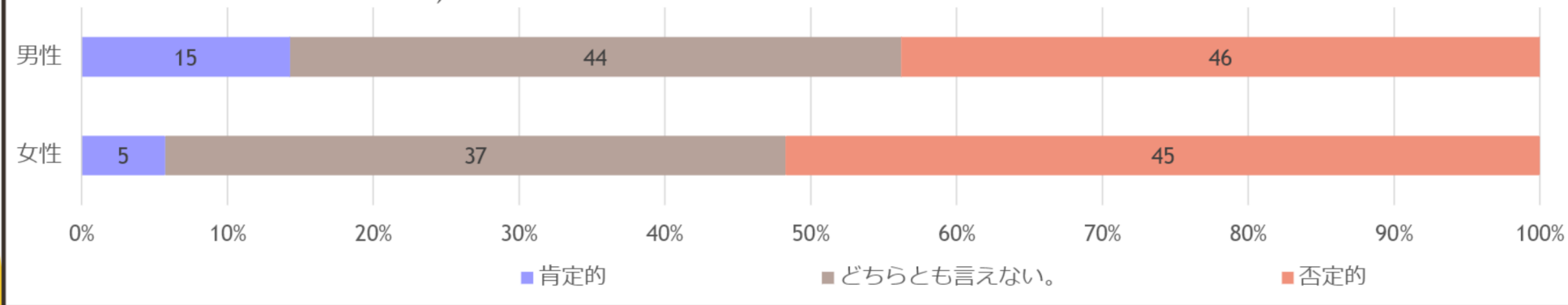
本研究の趣旨と目的をアンケート冒頭に記載し、調査への協力は自由意思であること、無記名であり個人が特定されないこと、同意が得られない場合に不利益を被ることは無いこと、本研究目的以外での使用はしないこと、回答後に送信した段階で調査協力の同意が得られたこととした。

結果① 性別役割分業意識

1)日本に性別役割分業意識が浸透しているか？



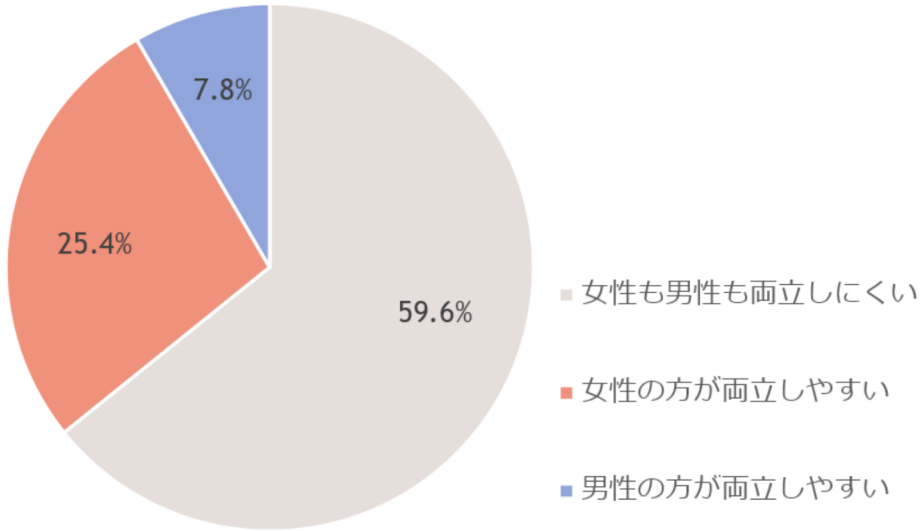
2)性別役割分業意識に対する自身の考え



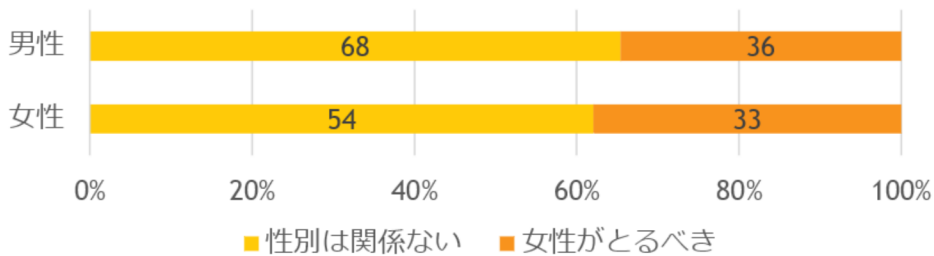
- 1)男女とも性別役割分業意識は「日本に浸透している」と考えている者が多い。
- 2)男女とも性別役割分業意識に「否定的」な意見が多い。

結果② 育児と仕事の両立に対する考えと、育児休業の取希望

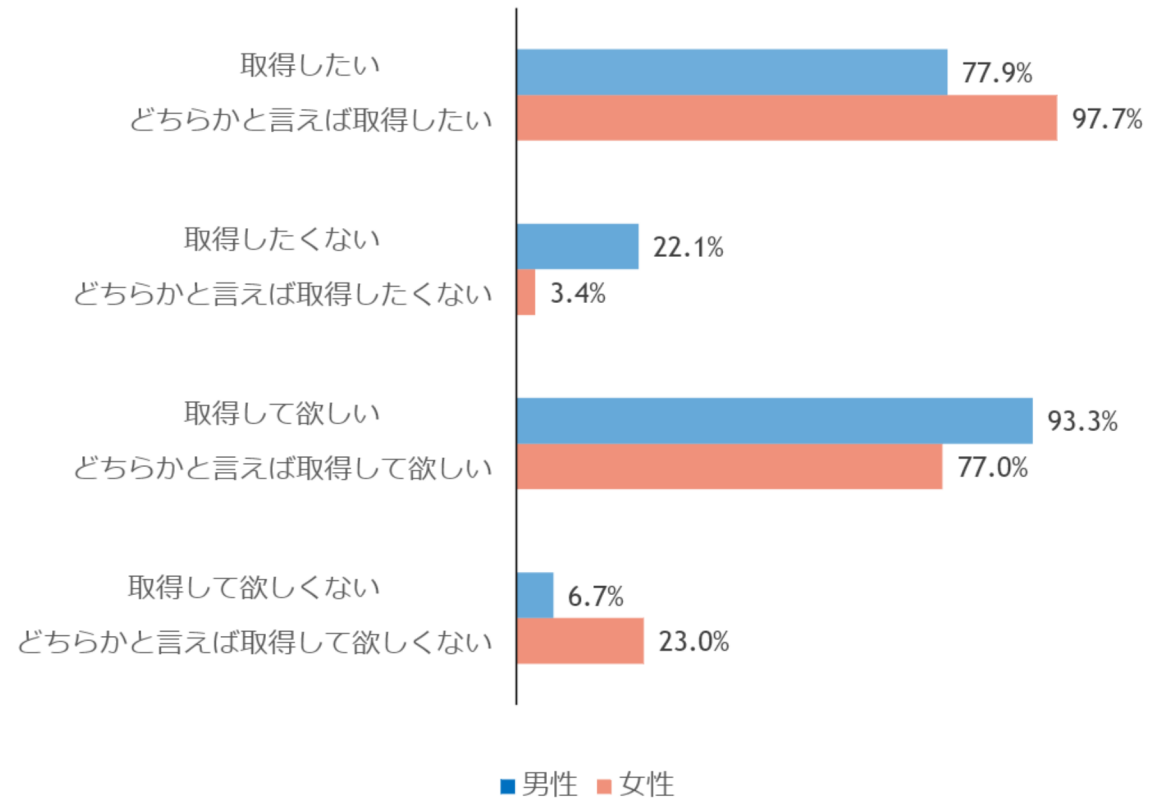
1)日本における仕事と育児の両立



2)育児休業取得に対する考え



3)「自身の育児休業取得希望」と「パートナーに対する育児休業の希望」の比較



結果③ 男性の育児や育児休業取得に対するイメージ

1. 男性が育児をすること

<p>男女共に多い認識 →夫婦で育児するのは当然</p>	<p>「夫婦で子育てすることは当たり前」「協力して育児をするべき」 「自分たちの子どもだから夫婦で責任をとるべき」</p>
<p>男性に多い認識 →お金を稼ぐことも育児になる</p>	<p>「できれば育児したいが、お金を稼ぐことも育児になるのではないか」 「仕事も育児も頑張りたい。仕事をする事で育児に貢献したい」</p>
<p>女性に多い認識 →男性育児の偏見に違和感</p>	<p>「子育ては当たり前だし男性だけにイクメンという言葉が生まれる事に違和感がある」 「手伝うという表現に疑問を感じる」「手伝うという感覚より一緒にやりたい」</p>
<p>夫婦で育児をするべき理由 →子どものため、自分のため</p>	<p>「子どもの成長家庭に重要なこと、愛着や家族形成に影響を及ぼす」 「父親は女性と違った視点から子どもと触れ合える」「親としてのモチベーションにつながる」</p>
<p>夫婦で育児と仕事を分担する方法 →相互理解と夫婦間の平等性</p>	<p>「夫婦のコミュニケーションと協力が大事」「臨機応変が求められると思う」 「バランスが大事」「どちらかだけが偉いわけではないという理解が大事」</p>
<p>男性の育児参加を促す方法 →主体性、継続できる夫婦形態</p>	<p>「育児は義務感ではなく、主体性で行うことが望ましい」「コロナ禍での在宅ワークを、仕事と育児の両立のきっかけに活かそう」「継続できる無理ないスタイルを選ぶことが大事」</p>
<p>反対意見、その他 →専業主婦への憧れ →育児をする男性のイメージ</p>	<p>「育児をしたくない」「仕事帰りと休日で育児は充分では?」「男性だと育児が空回りしそう」 「男性に子ども預けるのに抵抗がある」「専業主婦への憧れがある」 「育児をしている男性は稼ぎが少ないのかと思い抵抗感と信頼のなさを感じる」</p>

2. 男性の育児休業取得率が低い理由(自由記述回答より)

<p>① 社会と会社の理解のなさ 例「会社の立場が家庭より優先されている社会の風潮がある」</p>	<p>② 収入の男女差からくる金銭面の不安 例「男性の方が給与が高いから生活を考えると取りづらい」</p>
<p>③ ロールモデルの少なさ 例「社会で活躍している男性の育児方法を見て参考にしたい」</p>	<p>④ 父親の自覚の欠如 例「父親であるという認識を持つ機会が少ないのではないか」</p>

考察① ～男性の育児休業取得率低迷に影響している因子～

▶ 1)性別役割分業意識の浸透とその認識

日本政府が進めている制度の改革

ギャップ

拭えていない国民の性別役割分業意識

今後

制度の改革と合わせて、国民の意識改革にも積極的に向き合うべき

▶ 2)男性育児に対するイメージと現状

- ・日本の時代背景に起因する男性育児の「固定観念」→男性育児の偏見を生む
- ・男性が育児参加する機会が低水準→1日数時間しかない育児機会を通じて「育児参加」を促す難しさ

しかし

～男性の育児参加を促進する良い傾向～

男性が育児に参加することの必要性・重要性の理解を示す意見
→男性育児に対する意識変化

多

今後

男性が育児に関わることによる子どもの教育上の効果や家庭内(夫婦間)に及ぶ良い影響、男性自身にメリットがあることを広めていく。

考察② ～男性の育児休業取得率低迷に影響している因子～

▶ 3) 経済的男女格差

世間一般やパートナーに対する育児休業の希望
→ 男女「性別関係なく男でも女でも取得すべき!!」



自分自身の育児休業に対する希望

→ 女「取得したくない」割合(3.4%)
→ 男「取得したくない」割合(22.1%)

男女差

男性の保守的な思考傾向があることが考えられる。

なぜか？

① 収入面での性別格差

・ 女性の社会進出  収入面での男女差
→ 若者が将来に不安を抱く

② 仕事に対する男性の意識や会社の理解不足

- ・ これまでの一般的な企業の雇用形態
- ・ 男性の育児休業に対する特別視

自分が働いたほうが家計のため...
育児休業希望なんて言いにくい...
自分は職場内の“少数派”?!

男性



今後

有名人によるロールモデルを増やす、金銭面での経済的男女格差を縮める

結論

▶ 1. 将来像

本調査では、男女とも9割以上の者が将来は結婚して子育てをしたいと考えていた。

▶ 2. 性別役割分業意識

男女共に約9割が日本に浸透していると認識している中、性別役割分業意識に抵抗感を示すものが男女とも8割を超えていた。

▶ 3. 育児休業を取得する上での認識

男女共に約6割が「性別は関係ない」と思っていた。

自身の育児休業取得を希望しない者の割合は男性が多いが一方でパートナーに対し育児休業取得を希望しない者の割合は、女性が多かった。

▶ 4. 日本人男性の育児休業取得率が低い理由

本調査では、日本人男性の育児休業取得率が低い理由として、

1)性別役割分業意識の浸透とその認識 2)男性育児に対するイメージと現状 3)経済的男女格差の3つに分類出来た。

参考文献

- ▶ 服部(2009).大学生男女が親になることについて考えるきっかけ. 椋山女学園大学看護学研究.1,97-105
- ▶ 厚生労働省(2016) 平成28年国民生活基礎調査「世帯数と世帯人員の状況」<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/02.pdf> (2020.10.16アクセス)
- ▶ 厚生労働省(2017) 働き方・休み方改善ポータルサイト<https://work-holiday.mhlw.go.jp>(2020.10.16アクセス)
- ▶ 厚生労働省(2019) 雇用環境均等局 職業生活両立課「令和元年 男性の育児休業の取得状況と取得促進のための取組について」<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/meeting/consortium/04/pdf/houkoku-2.pdf>(2020.10.25アクセス)
- ▶ 内閣府(2016)「平成26年女性の活躍推進に関する世論調査」調査結果の概要<https://survey.gov-online.go.jp/h26/h26joseikatsuyaku/index.html>(2020アクセス)
- ▶ 内閣府男女共同参画局(2017)『「平成28年社会生活基本調査」の結果から～男性の育児・家事関連時間～』http://wwa.cao.go.jp/wlb/government/top/hyouka/k_42/pdf/s1-2.pdf (2020.10.16アクセス)
- ▶ 内閣府男女共同参画局(2018) 世論調査「男女共同参画社会に関する世論調査」～男女共同参画社会に関する意識について～<https://survey.govonline.go.jp/h28/h28danjo/index.html>(2020.10.25アクセス)
- ▶ 内閣府男女共同参画局(2018)「平成29年度 男女共同参画社会の形成の状況及平成30年度 男女共同参画社会の形成の促進施策」https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h30/you/pdf/h30_gaiyou.pdf(2020.10.25アクセス)
- ▶ ニッセイ基礎研究所 松浦民恵.(2017)「男性の育児休業」で変わる意識と働き方 https://www.nliresearch.co.jp/files/topics/55099_ext_18_0.pdf?site=nli(2020.10.28アクセス)
- ▶ 総務省(2016) 平成28年社会生活基本調査 「生活時間に関する結果」<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/gaiyou2.pdf>(2020.10.28アクセス)
- ▶ 総務省(2016) 平成28年労働力調査報(詳細集計)「専業主婦世帯と共働き世帯」<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/timeseries/html/g0212.htm>(2020.10.16アクセス)
- ▶ 津森登志子(2015). 医療系大学生の男女共同参画・ライフスタイル・就労継続に関する意識－1年生へのアンケート調査から－. 県立広島大学保健福祉学部誌.15(1), 57-66